



ロヒンギャ語には文字がないため、文書は標準のルマ語とラカイン地方の方言で書かれている。文字数が少ないため、別の難民による代筆も多い

ミャンマー（ビルマ）西部から隣国バングラデシュへ避難したイスラム系少数民族ロヒンギャの数は、激増が始まった2017年8月以降で64万人を超える。その多くは、ミャンマー軍や多数派である仏教系住民による襲撃と混乱の中で、家族と生き別れになったままだ。

11月に複数の難民キャンプを訪れた私は彼らをポラロイドで撮影し、家族へのメッセージを書いてもらった。「私はここにいて、あなたを探している」という逆方向からの行方不明者捜索ポスターだ。彼らを探すが目にするのを忌避し、難民たち本人にポーズと文面を考えてもらった。写真には彼らの指紋を付着させた。キャンプでは指紋で本人登録が行われるからだ。

ロヒンギャはミャンマー政府から存在自体を否定され、迫害行為は嘘だとあしらわれ、国際社会からも最近まで見過ごされてきた。だが彼らと子の苦痛は間違いないことに突入する。フォトライターはその物的証拠だ。私はこうして集めたフォトライターを、ネット上で公開・拡散する活動を開始した。生き別れた家族が、いつか再会する手助けになることを信じて。

瑠璃太郎

# LETTERS TO YOU

## ロヒンギャ難民が託した 生き別れ家族へのメッセージ

PHOTOGRAPHS BY TARO KARIBE

# Picture Power